

当院で検出された黄色ブドウ球菌の薬剤感受性の特徴と擦式消毒アルコールの使用量

◎永田 恵一¹⁾、林 夢矢¹⁾、松島志保¹⁾、上ノ本 千智¹⁾、橋本 秀哉¹⁾
 社会医療法人畿内会 岡波総合病院¹⁾

【背景】メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* : MRSA)は感染症治療や医療関連感染において問題となる細菌の一つであり、AMR アクションプランの成果目標にもその検出率が挙げられている。近年 MRSA の検出率は全国的に減少しているが、多剤耐性の院内感染型 MRSA(HA-MRSA)とは薬剤耐性の特徴が異なる市中感染型 MRSA(CA-MRSA)が増加している。

【目的】当院における MRSA の検出率およびその薬剤感受性の特徴と、擦式消毒アルコールの使用量との関連を調査すること。

【対象と方法】当院で2011年から2017年に検出された *Staphylococcus aureus* (*S. aureus*) 2218株、2014年10月から2017年12月までの擦式消毒アルコール製剤使用量を対象とした。MICの測定には VITEK 2 Compact を使用し、以下の5項目の年次推移を調査した。① *S. aureus* に占める MRSA の割合、②セファゾリン(CEZ)の MIC 低値株(MIC $4\mu\text{g/mL}$ 以下)と高値株(MIC $8\mu\text{g/mL}$ 以上)の年次推移、③擦式消毒アルコール製剤使用量、④各種抗菌薬の CEZ MIC 低値株と CEZ MIC 高値株の感受性率、⑤検体別の CEZ MIC 低値株と CEZ MIC 高値株の比較

【結果】① *S. aureus* に占める MRSA の割合は2013年をピークに、その後徐々に低下傾向であったが2017年では増加に転じた。②MRSA に占める CEZ MIC 高値株の割合は経年的に減少し、MIC 低値株は増加していた。また CEZ MIC 高値株は入院患者、CEZ MIC 低値株は外来患者由来の MRSA に多い傾向があった。

③擦式消毒アルコール製の使用量は2014年か

ら2017年にかけて増加の傾向であった。④抗菌薬の感受性率では、GM以外の抗菌薬 (EM、CLDM、MINO、LVFX、FOM) では CEZ MIC 高値株に比べ CEZ MIC 低値株の方が有意に高かった ($p<0.01$)。また、LVFX では CEZ MIC 低値株の感受性率の低下がみられた。⑤検体別の CEZ MIC 低値株と CEZ MIC 高値株では、CEZ MIC 低値株は皮膚病変から多く検出されており、CEZ MIC 高値株は静脈血や喀痰から多く検出されていた。

【考察】擦式消毒アルコールの使用量の増加に伴い、*S. aureus* に占める MRSA の割合は徐々に減少傾向にあった。HA-MRSA は CA-MRSA よりもセファロsporin系薬の MIC が高い傾向を示すことから、MRSA に占める HA-MRSA は減少傾向にあり、CA-MRSA は増加傾向にあると考えられた。また、入院患者では HA-MRSA の分離率が高く、外来患者では CA-MRSA の分離率が高かった。各種抗菌薬の感受性率では2015年にGMで大きな差は見られなかったが、EM、CLDM、MINO、LVFX では HA-MRSA 株は低く、CA-MRSA 株では高い傾向にあった。

【結論】擦式消毒アルコールの使用量の増加に伴い、当院で分離された *S. aureus* に占める MRSA の割合は徐々に減少していた。MRSA のうち、HA-MRSA 株が減少、CA-MRSA 株は増加の傾向にあった。

学会当日は、2018年までのMIC値による解析結果を加え、発表予定である。

会員外共同研究者：村田 幸

連絡先：岡波総合病院 検査部、

TEL：0595-21-3135